

平成22年秋号

発行：三重耳鼻咽喉科 荘司邦夫・坂井田麻祐子

津市観音寺町 445-15

Tel:059-228-0100 Fax:059-228-0133

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>

今回は、声のトラブルについてお伝えします。

「声のかすれ」で受診される患者様が多くいらっしゃいます。

実は、声がかすれるといっても、いろんなかすれ方があり、ゴロゴロと痰が絡んだようなかすれ方から、カサカサとした、空気が漏れるような、声にならないような、そんなかすれ方もあります。これらのかすれは、声帯で起こっている変化に伴って出てきます。

声帯は、耳鼻科で用いるファイバースコープで観察することが出来ます。カメラで見ると、声帯は白くV字型の構造に見えます。声帯は、声を出すと中央へ寄り、息を吸うときに開きます。この、中央へ寄るときに、寄りが悪かったり、ピツタリ寄るのを邪魔するものがあると、声がれの原因になるわけです。

具体的に、どんな病気があるのか、主なものについてご紹介します。

- * 声帯ポリープ：最も多い疾患です。声帯が中央へ寄って声を出すとき、最も強くこすれる部分は、前から1/3の部分です。この部分にポリープは出来やすく、出来ると、小さな痰が引っかかった時のような、ガラガラした声になります。普通は片側にできます。原因としては、タバコ、声の出し過ぎがあります。治療は、まず声を控えること、タバコを吸わないこと、無理に痰を払うような咳はしないことです。急性期は、炎症を抑える薬を使う場合もありますが、時間が経っても症状が変わらない場合は、手術をすることがあります。
- * 急性声帯炎：風邪を引いて声がかすれる場合、声帯が軽く腫れて声帯が振動しにくくなったり、左右でうまく接しなくなっています。のどが痛くないのに、急に声が出なくなった、といらっしゃる方が多い印象です。なるべく声を出さず、マスクやうがいなどをしてのどを乾燥させないようにします。腫れや赤みが強い場合は、抗生剤や炎症を抑える薬を使います。
- * 声帯結節：声帯の前1/3のよくこすれる部分両側にできる、小さなコブのような膨らみです。ペンをよく持つ方は、指にペンだこができますよね。それと同じことで、よくこすれる部分が硬くなってコブ状に膨らんで、声を出しにくくします。ガラガラとした、ハスキーボイスになります。子供では、学童期の男児に多く、成人では保育士さんや教師の方に多いです。声の出し過ぎでなった病気ですから、声を出さなければ治ります。が、職業的に声を出さないというのは無理な方がほとんどです。なるべく怒鳴るようなことは避けてもらい、休みの日は極力声を出さないようにしてもらいます。のどの保湿も大事です。可能であれば、マイクやメガホンを用いて、地声を張らなくていいようにします。

* 声帯萎縮、声帯溝症：声帯がやせて変形したり、溝ができたりする状態です。高齢の男性に多く、特に話し相手がいなくなった人や、長期の入院で声を出さない状態が続いた人、体重が急に減った人などに起こります。タバコを吸っている方は声帯が腫れた状態ですが、やめてしばらくすると声帯の腫れが治まって、逆にやせた声帯になる人もいます。声帯がうまく中央で合わないので、息が漏れて声がかすれます。体重を元に戻す、声をなるべく出して筋力をつけることをおすすめしています。どうしても声を改善する必要がある人や、声帯の締まりが悪いために誤嚥を起こす人では、手術で声帯の中に詰め物をして膨らませることで隙間を減らしたり、声帯が中央へ寄りやすい構造に変えたりすることもあります。

* ポリープ様声帯：声帯ポリープとは違い、両側の声帯全体が水ぶくれのようにぶよぶよになった状態です。タバコとの関係が非常にありますが、それに加えてよく声を出す人に起こりやすいといわれます。腫れがひどくなると呼吸がしにくくなることもありますので、ひどい人は手術で腫れた部分を取り除く場合があります。

* 喉頭肉芽腫：声帯の食道に近い部分（V字の上の部分）付近にできる炎症による腫瘍です。かなり強い咳を繰り返していた、全身麻酔による長時間手術を受けた後、胃酸がのどまで逆流する症状のある人などにできることがあります。ステロイドの吸入や、漢方薬の内服などで治療をします。

* 反回神経麻痺：「はんかいしんけいまひ」と読みます。反回神経とは、声帯を司っている神経で、延髄から出て首へ降り、右は鎖骨あたりからUターン、左は大動脈を回ってUターンし、気管や食道の脇、甲状腺の裏を通り声帯へ到着します。この道のりのどこかに障害があれば、神経が麻痺し、声帯が動かなくなりますので、甲状腺、食道、肺などに腫瘍などがいないかの検査も必要になりま

す。何の原因もなく、突然声帯が麻痺することもあります。麻痺が続くと、動かなくなった側の声帯はやせてしまうので、より声が出しづらくなります。手術で声帯が中央へ寄りやすい構造に変えることもあります。

* 喉頭癌：声帯に腫瘍ができることが頻度として最も多く、やはり声がかすれ、来院されます。ごく初期であれば、ポリープのように声帯の一部分に腫瘍ができ、ガラガラした声になりますが、進行したがんでは、腫瘍で声帯が周りの組織と強くくっついてしまうため、声帯が動かず、声がかなり出しづらくなります。

その他、声帯に異常はないのですが、声が出なくなる病気があります。声帯が強く緊張したように中央で締まってしまい、絞り出すような声になる病気（痙攣性発声障害）や、精神的な問題やストレスなどから声帯がうまく中央で寄らなくなってしまい、声がかすれる病気（心因性発声障害）など、不思議な病気があります。

声帯に変化が起きると、声が変わるためすぐに気がつきますが、目に見えない場所だけに、何が起きているか分かりにくいですね。是非、喉頭ファイバー検査で自分の声帯を確かめていただくことをお勧めします。片側の鼻に麻酔をし、4mm程度の細いカメラで診察します。検査時間はわずか30秒〜1分です。3、4歳の子供でも可能な検査です。特に、声を出す職業の方、タバコを吸われる方、少しでも気になることがあれば、検査を受けてみてはいかがでしょうか？